

## ムギ類赤かび病に関する今後の対策

- ・梅雨に入り、降雨による赤かび病の発病や病勢進展が助長されるおそれがあります。
- ・今後は、適期収穫によりまん延を防止するとともに、赤かび粒の混入防止を徹底するなどの対策が重要となります。特に、大麦はすでに収穫適期に達しているため、速やかに収穫してください。

### 1 発生現況

- (1) 6月中旬の巡回調査の結果、小麦の発病穂率は平年並であったが、発生地点率は平年を上回った(図1)。
- (2) 定点調査(古川農業試験場)の結果、発病穂率は大麦・小麦ともに平年を上回った(図2)。

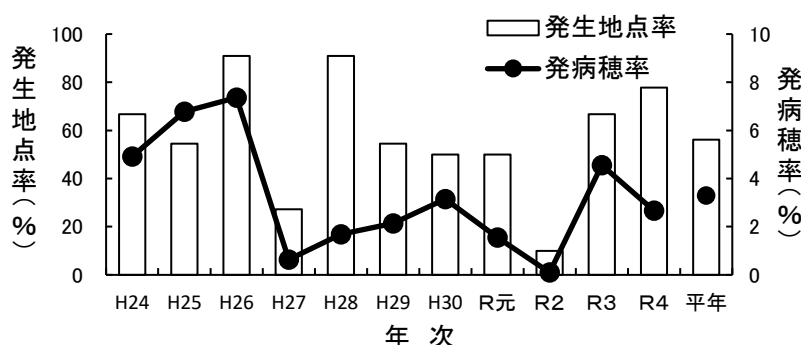


図1 小麦の赤かび病の発病穂率及び発生地点率の年次推移(病害虫防除所)

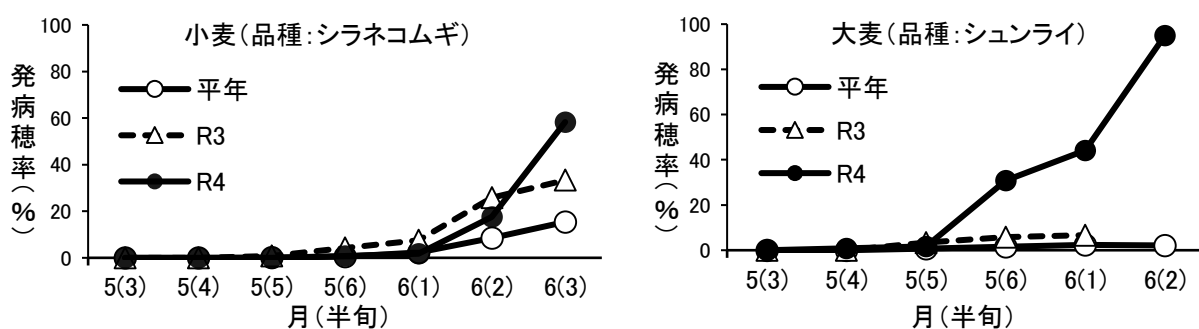


図2 赤かび病の発病穂率(古川農業試験場)

### 2 防除のポイント

- (1) 適期収穫: 県内は6月15日に梅雨入りし、赤かび病の発病・病勢進展に好適な気象で経過していることから、刈り遅れのないよう適期に収穫する。特に、大麦は収穫適期に達していることから、速やかに収穫する。小麦は成熟期のおよそ3日後を目安に収穫する。降雨が続く場合は雨の合間をみて効率的に収穫する。
- (2) 刈り分け: ほ場を見回り、発病が確認されたほ場は収穫時に刈り分けする(登熟後期は発病が見えにくくなるので注意する)。

- (3) 乾燥作業:子実の過湿状態での放置は赤かび病菌が増殖する原因となるため、収穫後は速やかに乾燥作業を行う。
- (4) 調製作業:比重選別や粒厚選別が赤かび粒の除去に有効であり、併用することで、より効果的に除去できる。
- (5) 収穫後のほ場管理:被害残渣(麦わらやこぼれ麦等)は早めに耕起し土壤中にすき込むか、ほ場外へ持ち出し、次作の伝染源密度を低下させる。

表 1 麦類の成熟期 (大崎市古川)

麦種	品種	成熟期(月/日)	
		本年	平年
大麦	シュンライ	6/12	6/5
	ミノリムギ	6/13	6/8
小麦	シラネコムギ	—	6/22
	夏黄金	—	6/24

※ 作況試験:古川農業試験場, 播種日:令和3年 10 月 21 日

※ 平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値(「夏黄金」は平成 28 年播種より供試のため5か年の平均値)

### ～ムギ類赤かび病の農産物検査規格及びかび毒について～

農産物検査規格上、赤かび粒の混入は 0.0%以下(1万粒検査した場合4粒以下)と定められており、これを超えると規格外となってしまいます。

また、赤かび病菌は人や家畜に有毒なかび毒であるデオキシニバレノール(DON)やニバレノール(NIV)を生産し、日本では小麦に含まれる DON の基準値が 1.0ppm と定められているため、基準値を超えた小麦は食品衛生法上、流通することができません。

#### — 農薬の適正使用について —

- 1 ラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分に確認する。特に、水田用除草剤や水田で粒剤を使用する場合は、止水に関する注意事項を確認する。
- 2 ラベルの注意事項にある「注意喚起マーク」の表示に従い、適切な保護具を着用する。
- 3 農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認する。
- 4 近隣住民等に散布スケジュールを事前に周知し、周辺環境への飛散防止に努める。
- 5 農薬は計画的に購入・使用し、使い切るよう努める。
- 6 散布後には農薬の使用履歴を記帳する。

※薬剤の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認してください。

農林水産省の農薬登録情報提供システム:<https://pesticide.maff.go.jp/>

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)



宮城県病害虫防除所 QR コード

**農薬危害防止運動実施中！(6月1日～8月31日まで)**